

北陸新幹線関係

埋蔵文化財包蔵地調査報告(3)

井ノ口城跡
若栗中村遺跡
舌山遺跡

2003年3月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

序

北陸新幹線は、経済の発展や生活領域の拡大、地域の振興を図ることを目的として建設が進められている新幹線鉄道です。日本海沿いに新潟県・富山県・石川県・福井県・滋賀県の五県を結び、東は長野新幹線、西は東海道新幹線に連結する路線として計画されました。現在上越・富山間の建設工事が着工されており、北陸地方の発展及び活性化が期待されています。

当埋蔵文化財調査事務所では、新幹線建設計画に伴い、平成8年度から建設予定地内の埋蔵文化財包蔵地について確認調査を実施しています。また平成13年度には包蔵地確認調査に加えて、朝日町竹ノ内Ⅱ遺跡・柳田遺跡・下山新遺跡において発掘調査（本調査）も実施いたしました。

本書は、井ノ口城跡（朝日町）、若栗中村遺跡（黒部市）、舌山遺跡（黒部市）における遺跡の範囲や時代、遺存状態を把握するために実施した包蔵地確認調査の結果をまとめたものです。この調査の成果が今後の発掘調査と研究の一助になれば幸いです。

最後に、今回の調査にあたり格別のご協力とご配慮をいただいた関係各位に深く感謝申し上げます。

平成15年3月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
所長 桃野真晃

例言

- 1 本書は平成13・14年度に朝日町井ノ口、黒部市若栗中村及び舌山地内の北陸新幹線建設予定地内で実施した埋蔵文化財包蔵地の確認調査報告書である。
- 2 調査は富山県教育委員会の決定に基づき、財団法人富山県文化振興財団が日本鉄道建設公団からの委託を受けて実施した。
- 3 調査は財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所が実施した。調査員は次の通りである。
調査第二課課長 酒井重洋、同文化財保護主事 内田亜紀子・須原拓
調査第一課文化財保護主事 中村亮仁・町田賢一・植木久美子
- 4 本書の編集は内田が担当し、執筆は町田、須原、内田が行った。
- 5 遺物写真の撮影は、調査第一課課長 狩野 睦の協力を仰いだ。
- 6 出土遺物及び記録資料は、当埋蔵文化財調査事務所が一括して保管している。

目次

序

例言

目次

I 位置と環境	1
II 調査の経緯	1
III 調査の結果	4
1 井ノ口城跡	4
2 若栗中村遺跡	6
3 舌山遺跡	10
IV 小括	12
引用・参考文献	12
写真図版	
報告書抄録	

図・表目次

第1図 調査対象地と周辺の遺跡	2
第2図 井ノ口城跡トレンチ位置図	5
第3図 若栗中村遺跡トレンチ位置図(1)	7
第4図 若栗中村遺跡トレンチ位置図(2)	8・9
第5図 舌山遺跡トレンチ位置図	11
第1表 調査結果一覧	1
第2表 調査対象地と周辺の遺跡一覧	3
第3表 井ノ口城跡トレンチ一覧	4
第4表 若栗中村遺跡トレンチ一覧	6
第5表 舌山遺跡トレンチ一覧	10
第6表 平成13・14年度包蔵地確認調査一覧	12
図版1 井ノ口城跡航空写真	
図版2 若栗中村遺跡・舌山遺跡航空写真	
図版3 井ノ口城跡	
図版4 若栗中村遺跡	
図版5 若栗中村遺跡	
図版6 舌山遺跡	

I 位置と環境

黒部川扇状地は北アルプスに源を発する黒部川によって形成された広大な沖積扇状地である。現在の黒部川は、扇状地内の西側に一本の主流として日本海へ注ぎ込んでいるが、古くは『黒部四十八ヶ瀬』とも呼ばれたように、扇状地内を主流と支流が網目状に流れるものであった。黒部川扇状地はその形成段階から、大きく三枚の段丘面に区分できる。最古の段丘面は、右岸で棚山丘陵、左岸で十二貫野台地と呼ばれる高位段丘である。後者には旧石器時代の石器が検出されている黒部市山田遺跡が立地する。また旧扇状地と呼ばれる中位段丘は右岸の発達が顕著で、国指定史跡の不動堂遺跡をはじめとして愛布新遺跡、下山新遺跡、柳田遺跡など縄文時代の遺跡が多く分布する。同様に左岸の中位段丘上にも浦山寺蔵遺跡、前沢遺跡などが存在する。最も新しい時期に形成された低位段丘上には中世以降近世に至るまで集落や城館、寺院跡などが散在する。

今回調査を行った朝日町井ノ口城跡は黒部川右岸の中位段丘の端部に位置する。黒部市若栗中村遺跡、舌山遺跡は黒部川左岸の中位段丘上に位置し、舌山遺跡の南側は隆起扇状地にかかる。

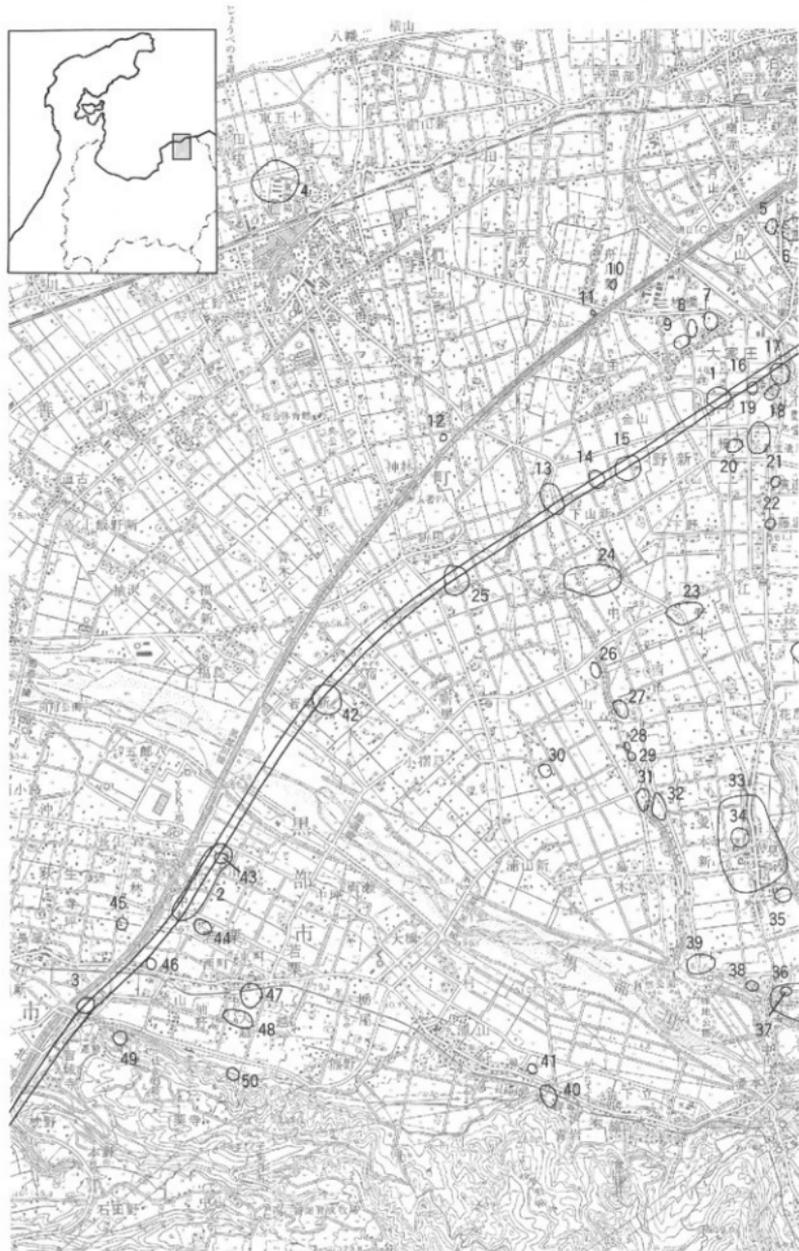
II 調査の経緯

北陸新幹線は、生活領域の拡大や地域活性化並びに経済の発展を図るため、長野市、富山市、小浜市付近を経由して東京都と大阪府を結ぶ工事延長600kmの新幹線鉄道として計画された。昭和60年に新幹線ルートが発表され、日本鉄道建設公団から要望を受けた富山県教育委員会文化課（現文化財課）と富山県埋蔵文化財センターは、路線敷全長63.9kmのうち約38kmについて分布調査を行い、周知の遺跡を含め県東部で16箇所、県西部で11箇所の埋蔵文化財包蔵地を確認した。平成7年に富山県埋蔵文化財センターは、未調査となっていた黒部市浦川端～舌山間について分布調査を行い、周知の遺跡3箇所を再確認した。

新幹線建設に先立ち、用地内遺跡の包蔵地確認調査の要望が日本鉄道建設公団から県文化財課に寄せられ、協議の結果当事務所に調査を依頼することとなった。これを受けて、平成8年度には小矢部市下川原遺跡、平成11年度には朝日町H S-11・12遺跡・竹ノ内Ⅱ遺跡、平成12年度には朝日町柳田遺跡・井ノ口城跡・下山新東・下山新遺跡の包蔵地確認調査を実施した。また平成13年度には朝日町竹ノ内Ⅱ遺跡・柳田遺跡・下山新遺跡について本調査を実施し、併せて黒部市若栗中村遺跡の用地買収完了部分について包蔵地確認調査を行った。平成14年3月には一部未調査となっていた新黒部～富山間の分布調査が埋蔵文化財センターを中心として行われた結果、周知の遺跡3箇所が再確認され、新たに4箇所の埋蔵文化財包蔵地が発見された。当事務所は平成14年度調査として柳田遺跡・下山新東遺跡・下山新遺跡の本調査を実施し、併せて井ノ口城跡・若栗中村遺跡の未調査部分と黒部市舌山遺跡について包蔵地確認調査を行った。以下に平成13・14年度に実施した包蔵地確認調査の概要を記す。

遺跡名	調査期間(実働日数)	対象面積	発掘面積	遺跡の有無(時代)	遺跡推定面積
井ノ口城跡	H14.4.17(1日)	1,179㎡	255㎡	無	—
	H14.9.25(1日)	798㎡	180㎡	無	—
若栗中村遺跡	H13.11.19~11.21(3日)	2,400㎡	279㎡	有(中世)	850㎡
	H14.5.9~5.23(10.5日)	22,671㎡	1,814㎡	有(中世)	5,924㎡
	H14.11.25~11.27(2日)	6,290㎡	401㎡	有(中世)	3,320㎡
舌山遺跡	H13.11.28~11.29(2日)	4,590㎡	401㎡	有(縄文・中世)	2,240㎡

第1表 調査結果一覧



第1図 調査対象地と周辺の遺跡 (1:50,000)

番号	名称	所在地	黒田図番号	種別	時代	備考
1	井ノ口城跡	朝日町井ノ口	343088	城館	中世(鎌倉・室町)	平成12年試掘調査
2	若栗中村遺跡	黒部市若栗、中村	207072	散布地	中世・近世	平成13年試掘調査
3	香山道跡	黒部市若栗字香山	207027	散布地	縄文	
4	西蓮寺道跡	入善町中文字竹ノ屋	342002	散布地	中世(鎌倉)	
6	南保城跡	朝日町坂町・南保	343045	城館	中世(室町末)	
7	鏡ノ城跡	朝日町三枚橋字館	343060	城館	中世(室町)	昭和51年試掘調査
8	天ノ道跡	朝日町三枚橋	343061	散布地	中世(鎌倉・室町)	昭和51年試掘調査
9	天香寺道跡	朝日町三枚橋	343062	社寺(寺院)	中世(室町)	昭和51年試掘調査
10	舟川新道跡	朝日町舟川新	343068	散布地	不明	
11	窪田遺跡	朝日町窪田	343069	散布地	不明	
12	富士塚遺跡	入善町小杉	342003	散布地	中世(室町)	
13	下山新道跡	朝日町下山新字馬坂	343069	集落	縄文(中・後)	昭和47・48・50・51・平成13・14年発掘調査
14	下山新東道跡	朝日町下山新	343068	集落	縄文(前・中・後・晩)	平成14年発掘調査
15	高橋遺跡	朝日町窪田字高橋	343067	集落?	縄文(中・後)・近世	昭和52年試掘調査
16	柳田古墓	朝日町柳田	343065	墓	中世(鎌倉・室町)	昭和49年発掘調査
17	柳田遺跡	朝日町大家庄字梅田	343063	集落	縄文(前・後・晩)・中世(鎌倉・室町)・近世	昭和49年・平成13・14年発掘調査
18	不動堂北遺跡	朝日町不動堂	343064	散布地	縄文(後)	
19	不動堂遺跡	朝日町不動堂字三宝	343066	集落	縄文(中・後)	昭和49年国指定史跡
20	不動堂西遺跡	朝日町横水	343083	集落	中世(鎌倉・室町)	
21	横水一里塚	朝日町横水	343070	塚(一里塚)	近世	昭和42年町指定史跡
22	藤塚古墳	朝日町藤塚字大野	343071	古墳	古墳	
23	野中遺跡	入善町野中	342005	散布地	縄文	
24	中沢遺跡	入善町中沢	342004	散布地	縄文(中・後)	
25	H S - 12遺跡	入善町新屋	342018	散布地	近世	平成11年試掘調査
26	下山峠遺跡	入善町下山	342007	散布地	縄文	
27	西中遺跡	入善町西中	342008	散布地	縄文	
28	下山地藏遺跡	入善町下山字地藏	342009	社寺(寺院)	中世(鎌倉?)	
29	下山八幡社遺跡	入善町下山字地藏	342010	社寺(寺院)	中世(鎌倉)	
30	新屋島遺跡	入善町新屋字島	342011	散布地	縄文(後)	
31	坪野遺跡	入善町下山字坪上	342012	散布地	縄文(中・後・晩)	昭和40年県指定史跡、平成元年試掘調査
32	愛本新道跡	宇奈月町愛本新	341001	集落	縄文(中・後・晩)	昭和45年県指定史跡
33	中ノ口遺跡	宇奈月町中ノ口上平地区	342021	散布地	縄文	
34	舟見中学校遺跡	入善町舟見	342014	散布地	縄文(中)・中世(鎌倉・室町)	
35	舟見小柴遺跡	入善町舟見字小柴	342017	散布地	中世(室町)	
36	法福寺前遺跡	宇奈月町明日	341020	散布地	中世・近世	
37	明日C遺跡	宇奈月町明日	341006	散布地	縄文	
38	愛本小学校遺跡	宇奈月町愛本新	341003	散布地	不明	
39	風野遺跡	宇奈月町愛本新字風野	341002	散布地	縄文(後・晩)	
40	下立遺跡	宇奈月町下立字沖	341009	散布地	縄文(中・後)	
41	黒部中学校庭遺跡	宇奈月町浦山	341008	散布地	縄文	
42	H S - 11遺跡	入善町小摺戸	342019	散布地	中世(鎌倉・室町)	平成11年試掘調査
43	長安寺跡	黒部市若栗字川端	207022	城館	中世(鎌倉・室町)	平成13年発掘調査
44	若栗城址	黒部市若栗字中村	207024	城館	中世(室町)	昭和30年市指定史跡
45	H G - 33遺跡	黒部市栗林	207025	散布地・城館	中世(鎌倉・室町)	
46	H G - 32遺跡	黒部市香山	207026	散布地	不明	
47	若栗遺跡	黒部市若栗字町・字東町	207030	散布地	縄文・中世(鎌倉・室町)	
48	袖野遺跡	黒部市若栗字袖野	207031	散布地	縄文	
49	宮野遺跡	黒部市宮野	207029	散布地	縄文	
50	古館城跡	朝日町坂町	343046	城館	中世(鎌倉・室町)	
50	竹谷遺跡	黒部市若栗字大越	207032	散布地	縄文	

第2表 調査対象地と周辺の遺跡一覧

Ⅲ 調査の結果

1. 井ノ口城跡

調査対象地

井ノ口城跡は舟川の東側に位置し、現況は宅地である。井ノ口城跡は平成12年度に包蔵地確認調査を行っており、今回の調査範囲は平成12年度に調査できなかった宅地部分にあたる。地形は西から東に緩やかに傾斜し、標高は西側で56.8m、東側で55.5mを測る。トレンチ（以下Tとする）は路線敷きに平行するように4本設置した。対象面積は1,977m²である。

基本層序		
I層	整地土・盛土	灰黄褐色シルト (30cm~60cm)
II a層	縄文時代遺物包含層	褐色粘質シルト (20cm)
II b層	縄文時代遺物包含層	黒色粘質シルト (30cm~40cm)
III層	地山	褐色粘土・黄褐色砂質土・黄褐色砂礫

調査結果

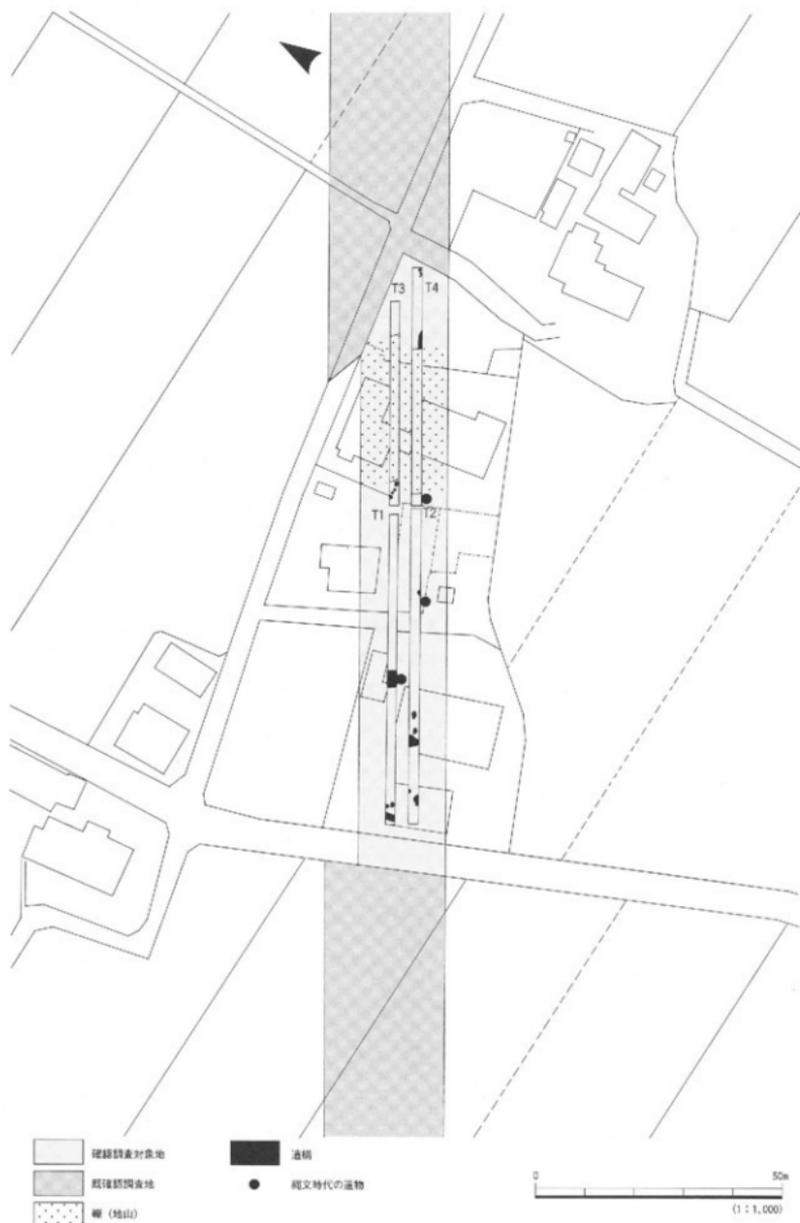
調査は宅地の移転に伴い、二度に分けて行った。したがって、はじめに対象地の西側1,179m²についてT1、2を設置、調査し、その後、東側798m²についてT3、4を設置、調査を行った。調査対象地は家屋の基礎などの影響により、著しく削平を受けている。そのため、大部分が整地土・盛土の下は地山に達している状態である。

T1、2は対象地の南北方向に平行して設置したトレンチである。トレンチの東側で地形がやや落ち込んでおり、そのため、東側で遺物包含層を確認することができた。遺物包含層は上層と下層で土の色調が異なることから、便宜的にII a層、II b層に分けた。遺物は僅かに縄文土器の小片を検出しており、それらからこの遺物包含層も縄文時代のもつと推定した。遺構は穴や溝、土坑(?)を確認した。穴や溝は不明瞭で、性格も不明である。また、土坑(?)はT2から確認された。大きさ1.5~2.0mで覆土はII b層と思われる土であったが、プランが不明瞭な上、しっかりとした形を成しておらず、性格も不明である。T3、4はT1、2に並行するように設置した。T1、2の東側でみられた遺物包含層がT3、4の西側にも続いている。縄文土器の小片が検出した。しかし、こちらの方が削平が著しく遺物包含層は僅かに残存するのみであった。また、トレンチ中央部の広い範囲で、地山が砂礫層になっており、ここからは遺構、遺物は確認されていない。遺構はT3の西側とT4の東側とで部分的に見受けられた。穴や風倒木痕、土坑(?)を確認したが、穴については不明瞭で、性格も不明である。土坑(?)はT4の東側で確認した。大きさ3.0mを測るが一部攪乱に切られている。覆土はII b層の土と推定されるが、やはりプランはしっかりとした形を成しておらず、付近に風倒木痕が集中して確認されたこともあり、この土坑は風倒木痕の可能性も考えられる。

調査対象地の範囲で遺物包含層が確認できたのは、T1、2の東側、T3、4の西側のみであり、遺物は縄文土器の小片を僅かに検出するにとどまっている。遺構もその性格が不明なものが多い。遺跡の性格・範囲を特定する材料に乏しく、従って、今回の包蔵地確認調査において、その調査範囲での木調査は必要ないと判断するに至った。

トレンチ番号	全長 (m)	掘削深度 (m)	検出遺構	出土遺物	備考
T1	63.2	0.6	溝2・穴2	縄文土器・打製石斧	
T2	64.4	0.8	土坑?1・穴5	縄文土器	
T3	41.7	0.7	穴5	—	II層わずか、地山砂礫層
T4	48.4	0.6	土坑?1・穴4	縄文土器	II層わずか、地山砂礫層

第3表 井ノ口城跡トレンチ一覧



第2図 井ノ口城跡トレンチ位置図 (1:1,000)

2. 若栗中村遺跡

調査対象地

若栗中村遺跡の調査範囲は県道若栗生地線から高橋川までの範囲である。市道荻原2号線を境に北東側に本線、南西側には車両補修基地の建設が予定されている。現況は水田と宅地で、調査対象面積は31,361㎡である。標高は南西側で58m、北東側で62mを測り、標高が高くなる北東側はほ場整備や後世の攪乱等の影響も強く受けている。調査は用地買収の関係から3回にわたって行った。トレンチは本線敷に計12本、車両補修基地に15本設定した。

基本層序	層名	説明	土質
I a 層	現耕作土		褐灰色粘土 (10~80cm)
I b 層	整地土		灰黄褐色粘土 (10~40cm)
II 層	旧耕作土?		黒褐色砂質シルト (10~30cm)
III 層	中世遺物包含層		黒色粘質シルト (10~30cm)
IV 層	地山		褐色粘質シルト・褐色砂礫

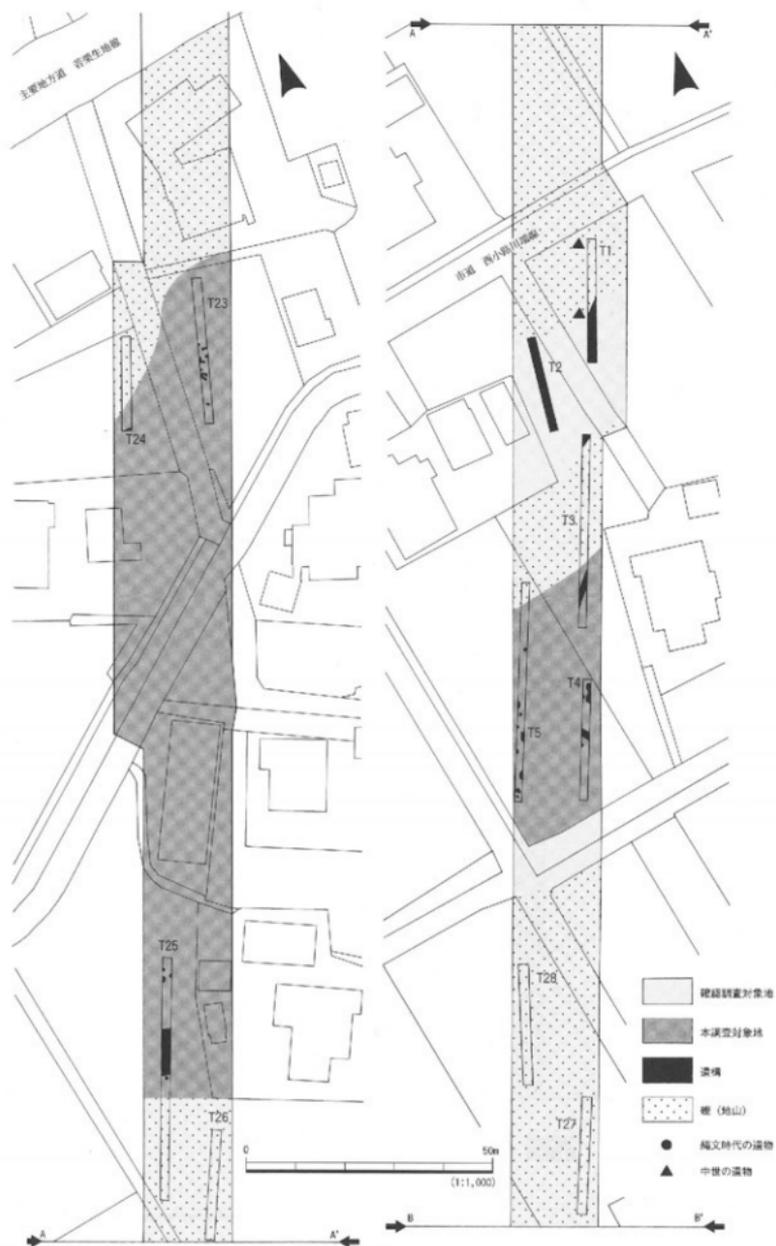
調査結果

調査区の北東部分は、ほ場整備による削平を受けてII・III層が残存しない部分が多い。T1~T5、T23~T29の範囲は遺構検出までの深度が浅く、表土直下が地山の礫層となる部分が多く見受けられる。遺構はT3~T5、T23~T25の範囲において検出した。隣接する長安寺跡(鎌倉・室町時代)との関連が考えられる。T17~T29は北方へ向かって深く落ち込む谷地形となっており、谷部分にはほ場整備による盛土が厚く堆積する。T17・18・20・22の南部分は遺構検出面が礫層となっており、明確な遺構は認められなかった。

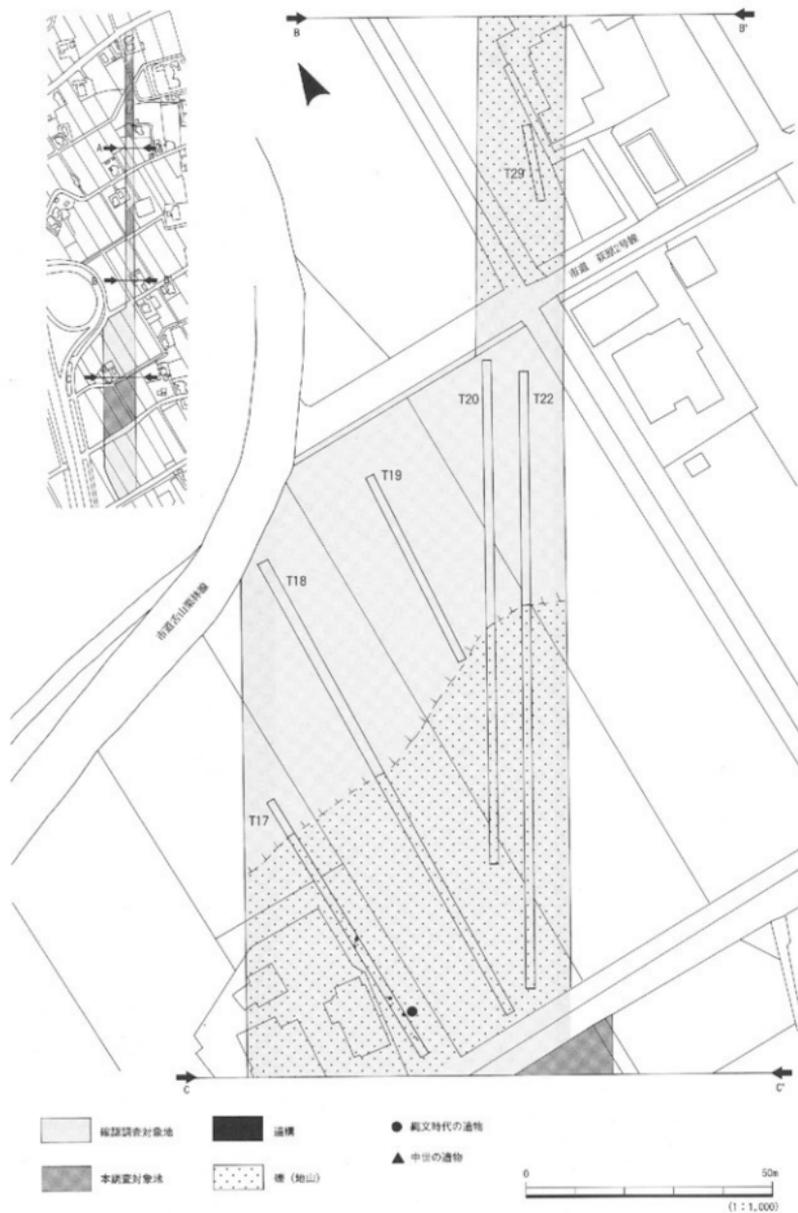
遺構の密な分布を確認したのは中央部分のT10~T15の範囲である。ほぼ全域でIII層の堆積と中世の遺構(溝、柱穴、土坑)を確認した。これより南西に位置するT6~T9では、高橋川の旧河道(近代)による攪乱が地山まで及び、遺構は残存しない。調査区全域において中世の遺物の出土は極めて少ないが、T1のI層から中世土師器と珠洲が、またT14のIII層から中世土師器が出土している。

トレンチ番号	全長 (m)	標高調査 (m)	検出遺構	出土遺物	備考
T1	25.7	0.7	谷1	中世土師器・珠洲・唐津	III層中に残る
T2	20.3	1.5	谷1	-	III層なし
T3	39.0	0.3	谷1・溝1	-	III・IV層なし
T4	24.0	0.3	溝1・穴4	地山	III・IV層なし
T5	45.5	0.3	穴10	-	III・IV層なし
T6	44.0	1.0	旧河道、黒陶木1	-	III層なし
T7	102.0	0.9	旧河道	-	III層なし
T8	21.0	0.7	旧河道	-	III・IV層なし
T9	46.3	0.7	旧河道、溝1	-	III層なし
T10	45.0	0.7	谷1・穴5	-	III層なし
T11	81.3	1.0	谷3・穴10	縄文土器	
T12	32.2	1.1	谷1・穴30・黒陶木1	藤戸	
T13	61.3	1.2	谷1・穴15	唐津	
T14	79.8	1.3	谷1・穴60	中世土師器・唐津	
T15	71.5	0.9	谷2・穴23	縄文土器	
T17	60.6	0.7	穴7・14・黒陶木1	縄文土器	北半分と南端部のIII・IV層確認済み、北端部落ち込み
T18	116.1	0.8	穴7・10	-	III・IV層確認済み、北半分落ち込み
T19	42.0	1.4	-	-	落ち込み
T20	102.8	0.9	-	唐津	III・IV層確認済み、北半分落ち込み
T22	125.5	0.9	-	唐津	III・IV層確認済み、北半分落ち込み
T23	30.5	0.6	穴12	-	西端部のIV層確認済み
T24	19.0	0.4	穴2	-	III・IV層確認済み
T25	49.0	0.9	溝1・穴4	-	西側のIV層確認済み
T26	23.0	0.5	-	-	III層なし、III・IV層確認済み
T27	21.0	1.0	-	-	III層なし、IV層確認済み
T28	23.0	0.8	-	-	III層なし、III・IV層確認済み
T29	16.0	0.6	-	-	III・IV層なし

第4表 若栗中村遺跡トレンチ一覧



第3図 若栗中村遺跡トレンチ位置図(1) (1:1,000)



第4図 若栗中村遺跡トレンチ位置図(2) (1:1,000)



3. 舌山遺跡

調査対象地

舌山遺跡は、黒部川扇状地の左岸に位置し、南西側にほぼ東西に伸びる隆起扇状地（宮野山）、北東側にほぼ東西に流れる黒瀬川がある。地形は、ほ場整備により改変されているが、南西の隆起扇状地から一度下った後、また北東の黒瀬川へ向けて若干上がっている。標高は現況で約49～51mを測る。ちなみに舌山遺跡は、以前から縄文土器の散布地として周知されていたが、平成14年3月の北陸新幹線建設に伴う分布調査でその範囲が南側に若干拡大している。

トレンチは、幅1.8m・長さ11～40mのものを路線に沿うように計9本設定した。調査対象面積は隆起扇状地裾部から黒瀬川までの4,590㎡、発掘面積は401㎡である。

基本層序

I a層	現耕作土	オリーブ褐色シルトなど (10～40cm)
I b層	盛土	灰色シルトなど (20～80cm)
II層	遺物包含層	黒色シルト (20～40cm)
III層	遺構検出面	黄褐色砂質シルト
IV層	地山	礫層

調査結果

遺構を検出したのは、調査対象地南西側のT1・2と中央部分のT5～7での2箇所である。遺構は、T1で大型の土坑（溝か?）、T2で大型の土坑（溝か?）、T5で土坑・溝、T6で柱穴・溝・土坑、T7で溝（流路か?）・柱穴をそれぞれ検出した。T1の土坑からは、他の遺構とは異なり、縄文土器片10数点が1箇所にかたまって出土し、T7の溝からは、打製石斧1点が出土している。遺物は全て縄文時代のものであるが、遺構の切り合いや柱穴の大きさから、遺構の時期は縄文時代の他に中世も考えられる。T3・4は、T1・2に比べて1段高いが、ほ場整備時に地山である礫層まで削平を受けており、遺構・遺物は見られなかった。北東側のT8・9も同様に削平されており、市道より北東側には遺跡が広がらないことを確認した。

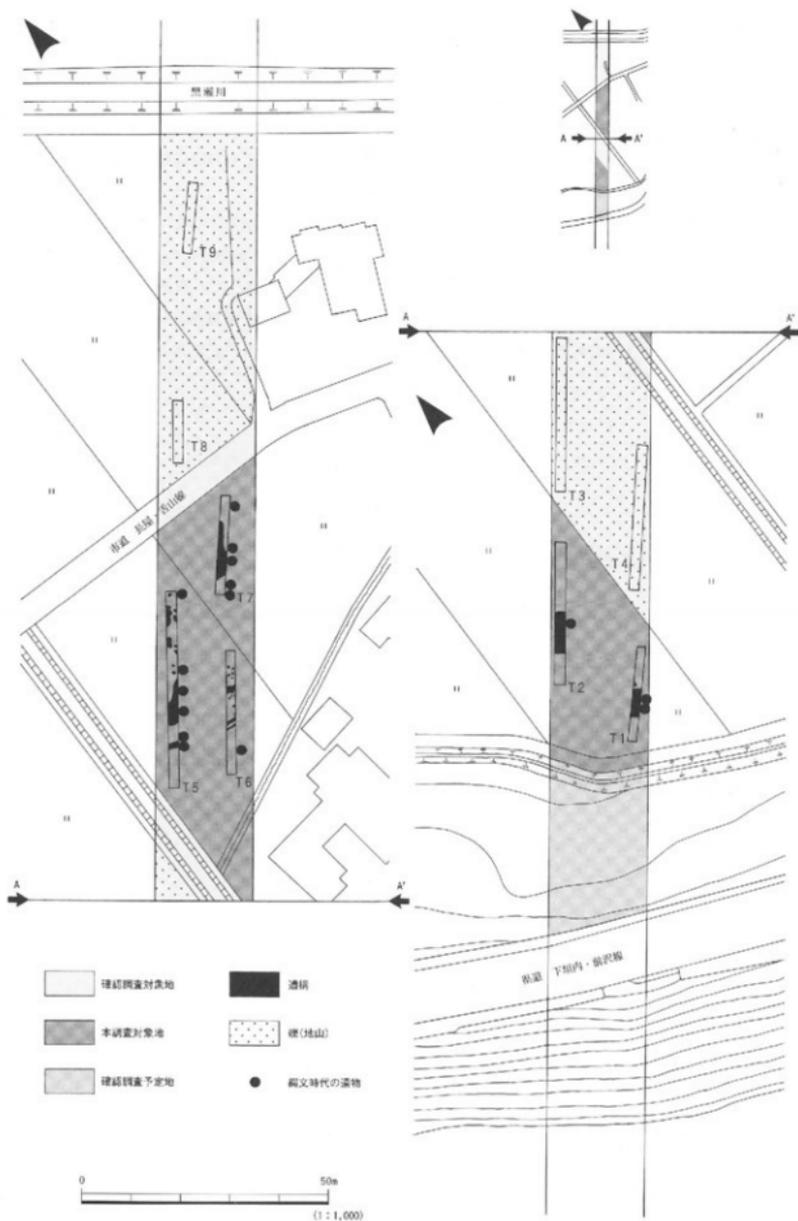
出土遺物には縄文土器と打製石斧がある。縄文土器は、体部に縄文・細沈線・葉脈状文・刺突文などを施した破片や底部の破片が見られるが、いずれも小破片のため個体復元は難しい。打製石斧は、鋳形を呈するものである。土器の時期は、串田新式期（中期後葉）と考える。

今回の包蔵地確認調査では、調査対象地の中央部分（T5～7）と南西部分（T1・2）で縄文時代・中世の遺跡の広がりを確認した。ただし、南西部分については、今回は用地買収が完了していないため調査できなかったが、確認調査対象地は県道まであり、拡大の可能性がある。

以上のことから調査対象地内の本調査を必要とする遺跡の範囲は、中央の掘削部分を除く市道から隆起扇状地裾部までの約2,240㎡となる。また、今回の調査対象地から県道までの約600㎡（未買収地）については今後包蔵地確認調査が必要である。

トレンチ番号	全長 (m)	掘削深度 (m)	検出遺構	出土遺物	備考
T1	18	0.82	穴1・溝1	縄文土器	
T2	30	1.09	溝1	縄文土器	東側が礫層まで削平を受ける
T3	30	0.88	—	—	礫層まで削平を受ける
T4	30	0.78	—	—	礫層まで削平を受ける
T5	40	0.67	穴12・溝2	縄文土器	新しい溝2
T6	21	0.47	穴15・溝2	—	新しい溝2
T7	18	1.06	穴2・溝1	縄文土器・打製石斧	
T8	11	0.41	—	—	礫層まで削平を受ける
T9	14	0.61	—	—	礫層まで削平を受ける

第5表 舌山遺跡トレンチ一覧



第5図 舌山遺跡トレンチ位置図 (1:1,000)

IV 小括

平成13・14年度に実施した3遺跡の包蔵地確認調査の結果は以下の通りである。

1. 井ノ口城跡では、平成12年度調査時に宅地部分のため未調査とした部分について、今回調査を実施した。その結果、前回調査と同様に、わずかな遺物は出土したものの明確な遺構は認められなかった。従って、本調査の必要はないと判断した。
2. 若栗中村遺跡では、3箇所中で世の遺物・遺構を確認した。遺跡の広がり、東側は県道若栗生地線まで、西側は市道西小路若栗線までの範囲である。隣接する長安寺跡との関係が重視される。
3. 舌山遺跡では、2箇所所で縄文時代の遺物・遺構と中世の遺構を確認した。遺跡の広がり、東側は市道長屋・舌山線までの範囲である。西側の範囲については、今回調査地の南西に延びる隆起扇状地裾部に至る可能性が高く、今後引き続き確認調査を実施する予定である。

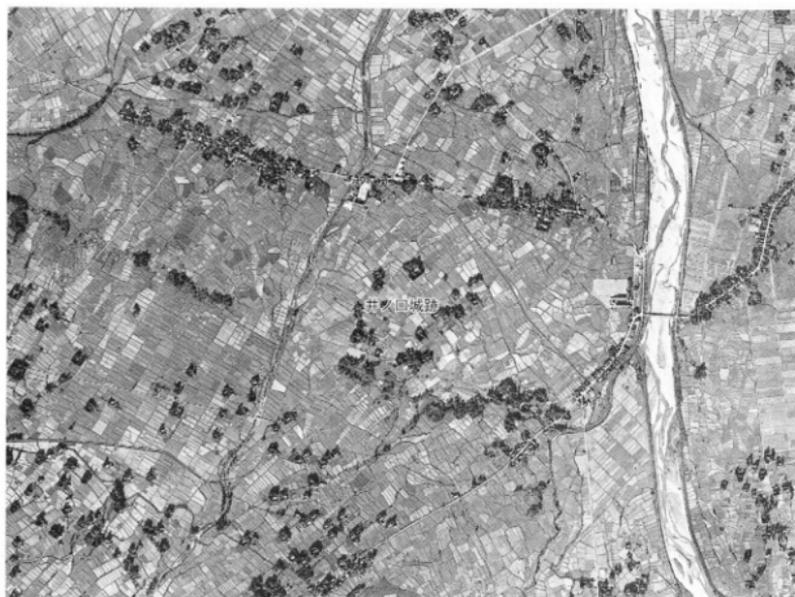
遺跡名	トレンチ番号	本調査対象面積	出土遺物	遺跡の時代
井ノ口城跡	1T～4T	—	縄文土器・打製石斧	—
若栗中村遺跡	1T～29T	10,094m ²	中世土師器・珠洲・瀬戸・唐津・壺山	中世
舌山遺跡	1T～9T	2,240m ²	縄文土器・打製石斧	縄文・中世
総計		12,334m ²		

第6表 平成13・14年度包蔵地確認調査一覧

引用・参考文献

『朝日町史』1984

『北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告(2) 竹ノ内Ⅱ遺跡(長野地区) 柳田遺跡 井ノ口城跡 下山新東遺跡 下山新遺跡』2001 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所



(1964年撮影)



図版1 井ノ口城跡 航空写真

(1988年撮影)

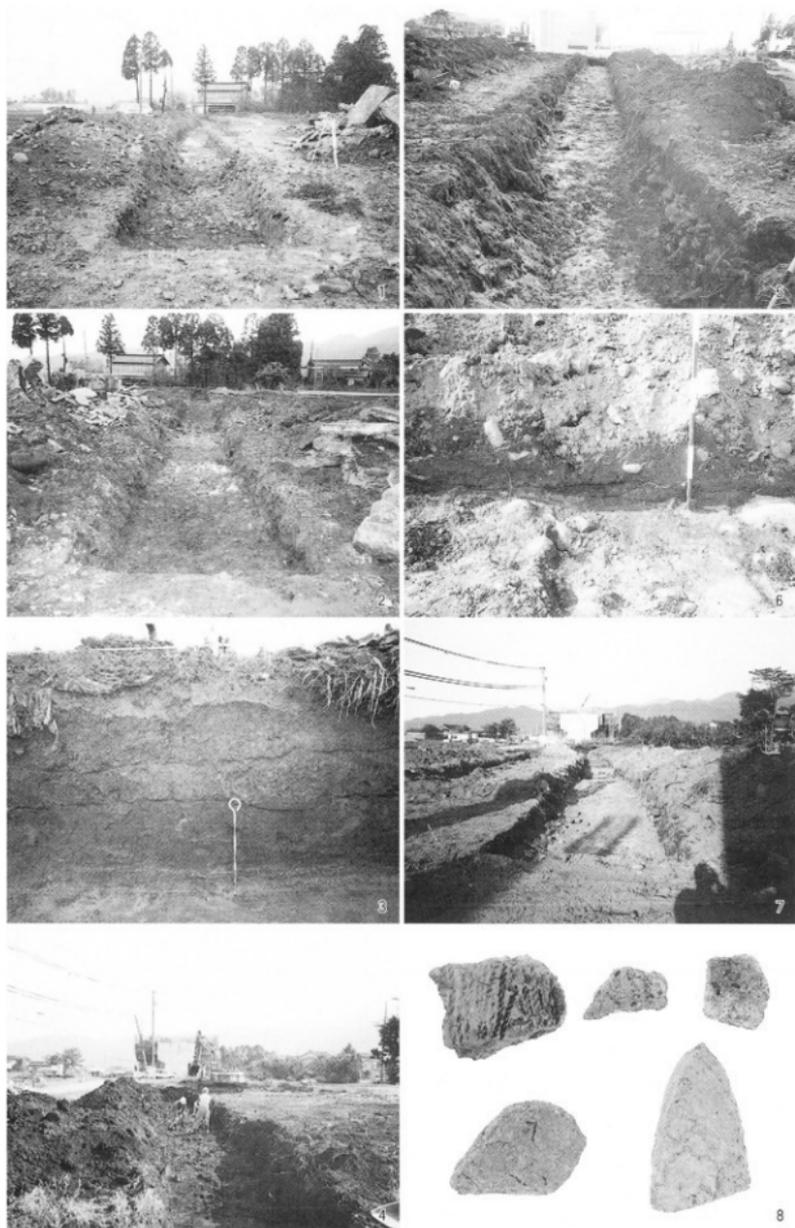


(1964年撮影)



図版2 若栗中村遺跡・吉山遺跡 航空写真

(1988年撮影)



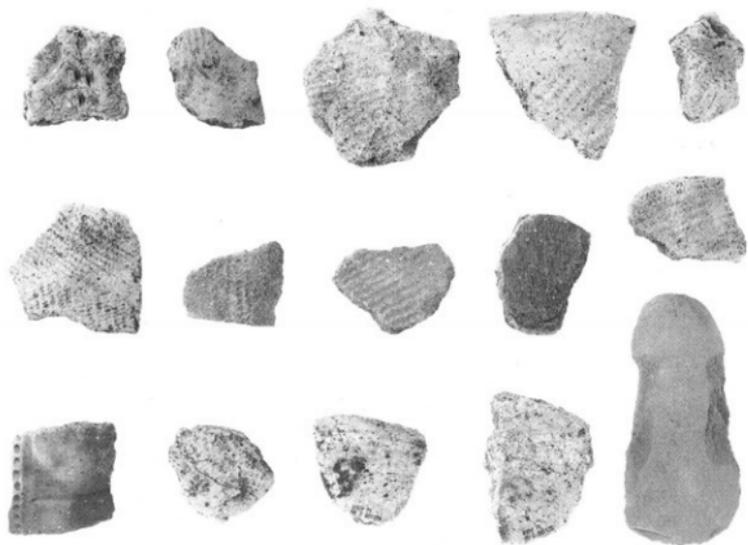
図版3 井ノ口城跡 1. T1 全景 2. T2 全景 3. T2 層位 4. T3 作業風景 5. T3 全景
 6. T3 層位 7. T4 全景 8. 出土遺物



図版4 若栗中村遺跡 1. T2 全景 2. T3 遺構 3. T4 遺構 4. T5 遺構 5. T10 遺構
 6. T11 全景 7. T11 遺構 8. T12 層位 9. T12 遺構 10. T13 遺構



図版5 若栗中村遺跡 1. T14 遺構 2. T15 遺構 3. T17 層位 4. T18 層位 5. T20 全景
 6. T23 作業風景 7. T23 遺構 8. T24 遺構 9. T25 遺構 10. 出土遺物



図版6 舌山遺跡 1. T1全景 2. T5遺構 3. T6遺構 4. T7全景 5. 出土遺物

ふりがな	ほくりくしんかんせんかんけいまいぞうふんかざいほうぞううちょうさほうこく
書名	北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告 (3) 一井ノ口城跡・若栗中村遺跡・舌山遺跡一
シリーズ名	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ番号	第19集
編著者名	酒井重洋、内田正紀子、町田賢、須原拓
編集機関	財団法人富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所
所在地	〒930-0887 富山県富山市五福4384番1号 TEL 076-442-4229
発行年月日	西暦2003年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
井ノ口城跡	朝日町井ノ口	3430	88	36° 55' 20"	137° 33' 10"	20020417 ~ 20020925	435 (対象1,977)	北陸新幹線建設に伴う包蔵地確認調査
若栗中村遺跡	黒部市若栗、中村	2070	72	36° 52' 42"	137° 29' 25"	20011119 ~ 20011121 20020509 ~ 20020523 20021125 ~ 20021127	2,494 (対象31,361)	北陸新幹線建設に伴う包蔵地確認調査
舌山遺跡	黒部市若栗字舌山	2070	27	36° 52' 02"	137° 28' 47"	20021128 ~ 20021129	401 (対象4,500)	北陸新幹線建設に伴う包蔵地確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
井ノ口城跡				縄文土器・打製石斧	本調査を必要としない
若栗中村遺跡	集落	中世	溝・柱穴	中世土師器・珠洲・瀬戸・唐津	
舌山遺跡	集落	縄文・中世	溝・土坑・柱穴	縄文土器・打製石斧	

富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第19集

北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告(3)

一井ノ口城跡・若栗中村遺跡・舌山遺跡一

編集・発行 財団法人富山県文化振興財団

埋蔵文化財調査事務所

〒930-0887 富山市五福4384番1号

TEL 076-442-4229

発行日 2003(平成15)年3月31日

印刷 能登印刷株式会社